

学校における事故発生とその措置過程に関する調査

西種子田 弘芳*

(1988年10月15日 受理)

A Research on Accidents and Emergency Measures in Schools

Hiroyoshi NISHITANEDA

I. 研究目的

最近、学校事故が社会的問題となっている。特に学校事故が激増し、これ以上増加させないための安全対策が急務であること、被害者の救済制度がいまだ不十分であり、そのために学校の教育活動を萎縮させている点などが重視されている。

そのために、学校や設置者である自治体等では、事故を未然にどのように防止するか、不幸にして事故が発生した場合にいかに軽減するかといった措置行動、これらを組織的にどのように協力的な活動として展開していくのかというような点が、急務な検討課題となっている。

そこで本研究では、鹿児島県下の小学校児童の、医療費や診療日数の増加を余儀なくする骨折・捻挫・脱臼事故の実態を明らかにするとともに、特に措置行動の過程や発生時の状況を加えて検討するものである。特に、これまで全く報告されていなかった「災害時の発生状況」や「災害発生に対して学校のとった措置状況」などを統計的に処理し、従来より行われていた主要項目の把握と統一させることに留意した。こうした処理・分析過程は、学校現場での具体的実践的な安全管理活動のあり方に貢献しうる基礎的作業となると考える。

II. 調査方法並びに分析手順

1. 調査資料と対象

鹿児島県下の各小学校から、日本体育・学校健康センター鹿児島支部に提出された、昭和58年1月から昭和59年3月までの災害報告書を調査資料とした。そのうち、骨折・捻挫・脱臼事故をおこした者の最終報告書（但し、同一者が同一事故災害で2件（枚）以上ある場合は、最も新しい報告書を活用）だけを抽出したところ、1,103名であった。なお、昭和58年度の鹿児島県下小学校の事故災害給付件数は、4,322件であり、骨折26.7%、捻挫・脱臼9.5%であった。

2. 調査項目

災害報告書（第2号様式 別紙1と別紙3）に記載されている全ての項目で、大項目及び中項目をあげると次のようになる。

* 鹿児島大学教育学部体育科

- (1) 学年・性・平常における心身の状態・災害を受けた時の心身の状態
- (2) 災害発生の場所
 - 学校内・校舎内, 校舎外
 - 学校外
- (3) 災害発生の場合
 - 教育過程に基づく授業を受けている時・各教科 道徳, 特別活動
 - 学校の教育計画に基づいて行われる課外指導を受けているとき
 - 休憩時間中その他校長の指示, 承認に基づいて学校にあるとき
 - 寄宿舎にあるとき
 - 技能教育のための施設において教育を受けているとき
 - 通常の経路方法により通学するとき及びこれに準ずるとき
- (4) 災害発生の日時, 災害発生時の天候
- (5) 災害発生の状況
- (6) 災害発生に対して学校側のとった措置状況 (以上第二号様式別紙1)
- (7) 傷病名
- (8) 診療開始日, 本月の診療実日数(但し, 同一者が同件で2枚以上の場合, 加算した日数)
- (9) 転帰 治ゆ・死亡・繰越・転医・中止
- (10) 医療費 (以上第二号様式別紙3)

3. 統計処理・分析上の区分

上記項目のうち, 今回の報告に必要な以下の項目は, 次のように再区分した。

- (1) 災害発生の状況(事故発生の直接的原因として把握する)
 - イ. 落ちる
 - ①手がすべる ②バランスを失う ③足を踏みはずす
 - ④手の着き方が悪い⑤他の人のいたずら ⑥その他
 - ロ. ころぶ
 - ①着地に失敗する ②つまづく ③足がすべる ④とびおる
 - ⑤ぶつかる ⑥からむ ⑦なにかが倒れる
 - ⑧なにかの上に乗る ⑨他の人のいたずら ⑩その他
 - ハ. ボールを受けそこなう
 - ニ. 踏まれる
 - ホ. ぶつかる
 - ヘ. その他
- (2) 事故発生時からの措置のあり方
 - 基本的には,
 - I. 事故発生時の教師の存在
 - II. 処置機関
 - イ. 保健室での養護教諭による応急処置
 - ロ. 帰宅して保護者の監督下におく
 - ハ. 病院など医療機関での診療

Ⅲ. 教師の処置機関への付添の有無

Ⅳ. 情報取得（傷害発生や負傷程度の把握）の時期

が考えられ、分類した結果、48区分に細分化した。これを上記枠に適合させて、6大区分、12中区分、24小区分として分類した。

(3) 事故発生部位

頭・頸部、肩・鎖骨部、上腕部、前腕部（橈骨・尺骨）、胸部（肋骨）、肘部、手部、大腿部、腰部、足部、下腿部（脛骨・腓骨）

(4) 診療日数

7日以内、8～30日、31～90日、91日以上

(5) 診療費

5千円以下、5千円～1万円、1～5万円、5～10万円、10万円以上

Ⅲ. 結果と考察

(一) 事故災害による負傷状況とその要因の把握

1. 発生件数について

表1に学年別・男女別・月別の発生件数を示した。

事故発生は学年が進むにつれて増加し、男女の比率は2：1である。杉浦保夫の報告⁽¹⁾では、年齢分布で6歳と12歳にピークがあり、進学などの環境の激変も影響しているという。

年齢とともに身体的な充実とその活動性の高まりなどによって、活動範囲や活動時間及びその活動内容も豊富になるため、事故発生も増加すると考える。本調査でも、2年生より1年生が事故発生件数が多く、4月と5月において1年生が多いことは、環境変化の影響もある程度予想できる。

季節的には、5月・6月と9月・10月・11月の春・秋期に多く発生している。体育祭などスポーツ活動が盛んな時期と適合する。一般に、男子は女子よりも活動的で、また、高学年になるほど冒険心や競争心あるいは挑戦意欲などが高まってくる。さらには、体育やスポーツ内容も高度な技術を要求するものを含んでいるため、事故をおこしやすくすると考える。

2. 発生場所・発生場合について

表2に場所別・男女別・月別発生件数を、表3に場合別・男女別・月別発生件数を示した。

場所別では、校舎外・校舎内・学校外の順に事故件数が多い。校舎外では、運動場・校庭、体育・遊戯施設の二カ所で90%以上の発生件数である。また、校舎内では、体育館・屋内運動場での発生が圧倒的に多い。これらの場所はいずれも、遊び・運動・体育などの身体的活動を主とする施設内である。これらは全国の集計結果と同一傾向である。但し、表1の学年別・男女別・月別の発生件数を比較すると、鹿児島県での寒さの厳しい2月や3月では、高学年で男女差が見られる。また、夏季の7月や9月でもその差が見られる。一般に、男子は季節に関係なく、校庭や体育・遊戯

表1 学年別・月別・男女別発生件数

月	性	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
1月	男	2	5	2	6	2	6	23
	女	1	0	3	2	8	3	17
2月	男	4	2	2	14	15	19	56
	女	3	0	4	9	6	4	26
3月	男	3	6	10	11	12	14	56
	女	1	3	2	12	2	12	32
4月	男	10	3	8	8	9	6	44
	女	4	2	4	4	6	5	25
5月	男	16	5	11	13	11	13	69
	女	6	6	6	11	11	10	50
6月	男	14	3	14	17	19	18	85
	女	12	6	10	6	15	9	58
7月	男	5	10	4	7	14	10	50
	女	4	2	9	2	5	5	27
8月	男	0	0	1	1	0	1	3
	女	0	0	0	0	0	0	0
9月	男	15	15	15	17	12	27	101
	女	7	3	9	12	6	13	50
10月	男	12	14	11	16	11	25	89
	女	8	4	8	14	18	10	62
11月	男	8	5	14	10	17	22	72
	女	6	10	6	8	10	13	53
12月	男	4	1	7	5	3	6	26
	女	0	6	5	2	4	7	24
計	男	93	69	99	115	125	167	678
	女	52	52	66	82	91	91	424
	計	145	111	165	207	216	258	1,102

施設などを利用するが、女子は特に冬期での屋外施設の利用が少ない傾向にあると考える。

ところで、日本体育・学校健康センターのこれまでの報告⁽²⁾では、校舎内の事故発生件数に、校種間の差があることが示されている。小学校では教室・実験実習室37.7%，体育館・屋外運動場5.2%，講堂・道場2.3%，廊下14.7%，階段・昇降口14.5%などとなっている。中学校では順に、23.4%，51.7%，3.1%，10.6%，7.7%であり、高等学校では7.3%，70.0%，14.2%，3.3%，3.3%である。即ち、年齢が低いほど、教室・廊下・階段などでの事故発生が多く、高学年になるほど、体育館・屋内運動場・講堂などの事故発生が多い。この状況に対し、喜多明人⁽³⁾は、子どもの活動領域——遊び・学習・生活——が、その成長にしたがって徐々に拡大し、これに伴って、事故の発生場所も変化してくると指摘している。今回の調査は、骨折・捻挫・脱臼の事故に限定し、また、小学校のみを対象としているので、校種間の差は確かめることはできない。しかし、骨折事故などの大きな事故が発生するためには、その前提として多くの軽い事故が発生していることが予想される。

そして、さらにその前提として、子どもを自由に解放させ、その場所へかりたてる魅力ある楽しみな活動が存在することになる。しかしそこには潜在的な危険要因も次第に増加することになる。

即ち、子どもの生活、しかも集団的生活そのものを常に見すえておくことが必要であろう。

場合別にみると、圧倒的に休憩時間中の事故が多く、全体の62%にも達する。特に、昼食休憩時

表2 場所別・男女別・月別発生件数

場所	月性	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
校舎内	教室	1		2		6		2	1	2	3	2	3	1				5	1	1	1	1	2	2		26	10	36
	実験・実習室			4	1								1													4	2	6
	体育館・屋外運動場	2	2	5	4	8	5	4	3	5	3	9	7	7	1			9	4	6	3	10	6	2	6	67	44	111
	講堂	1	1			1				1	1	4	1	1				1	1	1			1			8	7	15
	廊下					1	1	1		2	3			1				3	1	3	3		1			11	9	20
	昇降口		1	3						2	1	1								1	2	2	4			10	7	17
	階段	1				2	4	4	1	3	2	2	1	1	2			2	2		3	3		1		19	15	34
	その他		1			2	3						2					2	2					1	1	8	6	14
	校舎外	運動場・校庭	11	8	33	11	20	13	9	5	22	15	26	12	11	7	1		37	20	35	25	32	17	14	8	251	141
体育・遊戯施設	4	3	6	5	11	2	18	12	27	20	31	27	18	12	1		31	10	30	15	22	17	5	8	204	131	335	
プール												1	1													1	1	2
排水溝			1										1	1						1						2	2	4
その他	1		1	1	3	1	1	2		4	3	5		1			4	6	3	1	3	1			24	17	41	
学校外	道路	1	1	1	4	3	1	2	2	4	1	4	2				1	1	1	4	1	5	1	1		19	22	41
	公園・運動場					1												1	1							1	2	3
	山			1																1						2		2
	林野					1													1	1						2	1	3
	海										1								1	1						1	2	3
	その他	1				1	1			1	2	1		1	1			6	4	3	1					16	7	23
計		23	17	56	26	56	32	44	25	69	50	85	58	50	27	3	101	50	89	62	75	54	26	24	676	426	1102	

表3 場合別・男女別・月別発生件数

場合	月性	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
教科	体育	6	8	17	10	8	8	2	3	15	11	18	8	5	5			10	12	16	10	20	16	8	7	125	98	223
	算数					2																				2	0	2
	国語													1										2		3	0	3
	図工																						1			0	1	1
特別活動	学級会活動											1										2				1	2	3
	児童会活動																	1			1					2	0	2
	クラブ活動		1			1						2		1				2	1	2	4	1	1	1		11	6	17
	学級指導			2	1	1	1			1				2	1			2	2	1		2				12	4	16
	儀式的行事					1								1													2	0
学校行事	保健安全的行事	2		1																						4	0	4
	学芸的行事	1										1						1								3	0	3
	勤労生産的行事													1								2				2	1	3
	体育的行事			2	2	4	2	1	4	2			1					7	4	8	4	2	1		1	26	19	45
	遠足修学旅行					3	2			1	3							3	1	6	2					13	8	21
	その他			2		2	1	2		1				1	1				1	2	1			1	1	11	5	16
教計	生徒指導											1														1	0	1
	その他		1															1	1	1						2	2	4
休憩時間	休憩時間	2	2	11	2	10	4	15	6	14	13	19	14	13	5			18	4	25	11	8	8	6	3	142	72	214
	昼食休憩時間	10	1	18	4	16	9	14	8	20	11	23	18	15	10			31	11	14	15	25	11	5	9	191	107	298
	始業前特設時間		3	3		6	2	3	4	4	1	5	6	6		1		12	4	3	3	3	1	2		48	24	72
	授業終了後時間	2	1	2	4	2		4	1	3	8	5	8	4	4	1		8	8	11	9	7	9		2	49	54	103
通学他	登校中			1					1									2		2						4	3	7
	下校中			2	2	1	2	2	5	1	5	4	1					1	2	1	2	2	4			19	18	37
	寄宿舎											1						1								2	0	2
計		23	17	56	26	56	32	44	25	69	50	85	58	50	27	3	101	49	89	62	76	54	26	24	676	426	1102	

